

都市構造の可視化について



東京都 足立区
都市建設部 都市計画課

i-都市交流会議2020

1

1. 研修参加の経緯

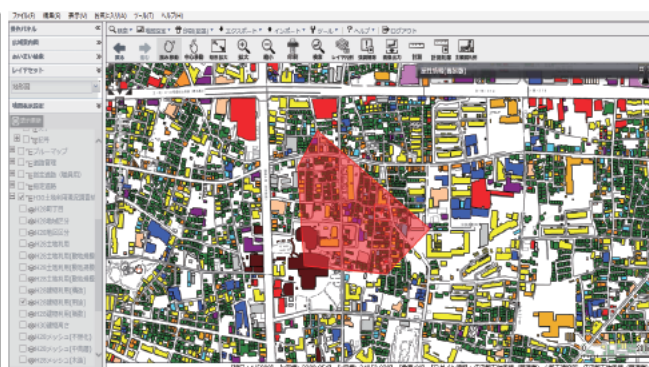
これからのまちづくりを検討していくうえで、諸システムの活用は不可欠

現在足立区で活用しているシステム ⇒ 庁内統合型GIS等

課題等

- ・職員が使いこなせていない
- ・建築的情報以外にも活用ができるのでは
- ・視覚的にわかと良い
- ・多くの情報の重ね合わせの可否
- ・業務効率の向上

etc



先進的なシステムを体験できる

都市構造可視化研修に参加した

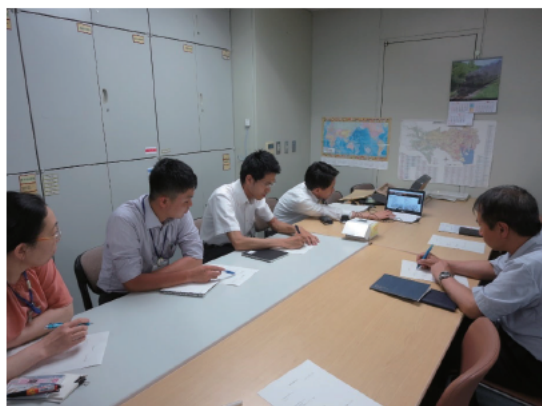


i-都市交流会議2020

2

2. 係内での共有

所属係で紹介、報告してみました！



(打ち合わせの様子)

このほか、資料の供覧を課内にて行いました。



3. 主な意見

共有のなかで出た主な意見

- ・都市構造可視化サイトのことをそもそも知らなかった。
- ・都内だと人口の差が見えづらい。
- ・密集地域の解消に使えるのではないかな。
- ・ハザードマップとの照らし合わせと何か発見があるかも。
- ・グラフで表示後、さらに1番、2番...ワースト1番等を表現できるとなると良い。
- ・都市計画課というよりまちづくり事業課や政策部門で活用できるのではないかな。
- ・おもしろそう。
- ・新耐震、旧耐震の分布がわかりそう。

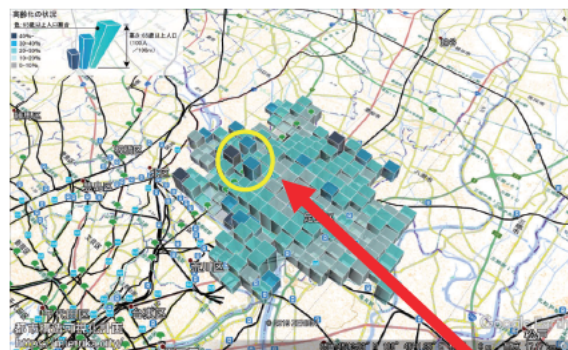


4.活用の検討

現状データを確認してみる。



□足立区の夜間人口について
 ・ほぼ全域において人口密度は真っ赤
 ⇒ほぼすべて居住者がいる地域
 ・予想よりも人口の偏りはそこまで見受けられない
 ⇒北千住以外の綾瀬、西新井といった区の拠点についても、ほぼ同様に見受けられる。
 ・むしろ北千住は少ないように見える。
 ⇒人口が少なく密度も少ないのは工業地帯
 ・拠点ではないが人口が多いところは住宅団地があるところか？



□足立区の高齢化について
 ・高齢化が激しい一番激しいのは江北駅周辺の区域である
 ⇒住宅団地がある
 ⇒江北駅には東京女子医大が令和3年度に開設される
 ⇒立地は良好？誘致の際にこのシステムがあればわかりやすく伝えられたか？
 ・川沿いに高齢化が激しいように見える、中央部は緩やか
 ⇒なぜか？

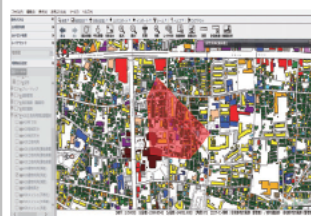
補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

4.活用の検討

①都市計画マスタープランの中間検証 ②建物建築年度ほかの可視化



□都市計画マスタープランの中間検証
 足立区都市計画マスタープランは平成29年に改定されました。改定から5年後となる2022年には中間検証を行うこととなっている。
 ・中間検証において計画内の各地区のまちづくり進捗度を可視化することで概要をつかめるのではないか
 ⇒足立区都市計画マスタープランでは区内を5地域30地区に分けて、記載をしている
 ⇒可視化サイトもメッシュだけではなく独自の区域パターンが表示できると良いのではないかと



□建物建築年度の可視化
 現在、庁内統合型GISに建築概要書ベースで建築物の築年数データの搭載を検討している。
 土地利用現況調査データと合わせ活用していく。
 ・築年数が可視化できれば新たな発見ができる
 ⇒旧耐震の建築物がそのあたりに多いか
 ⇒耐震化の普及に使用できるか？
 ・現在進んでいる用途地域見直しの説明会に活用できるか？

5.最後に

感想等

- ・グラフ上に順位が表示されると良い。
- ・メッシュだけではなく区分も変えられると良い。
- ・メッシュを細かくできると良い。
- ・簡単で使いやすい。
- ・パソコンとネット環境の課題。
- ・都市計画は一般の方にはわかりづらいため、都市計画の効果を視覚化できるのは良い。
- ・あくまで「可視化」であり「分析ツール」ではないため、あえて使用する局面がなかなか想像しづらい。
- ・東京都区部では変化を読み取りづらい。
- ・運用については都市計画に限らない。幅広く認知させていくためにも、多方面に周知していくのも必要。



足立区

都市の紹介



広さ 5,325 h a
人口 690,597人
(令和元年6月1日現在)

区のシンボルマークは、チャレンジング（挑戦）ハーモニー（調和）ヒューマン（人間性）のイメージ目標のもとに制定されました。
都市・自然・人間の調和をADACHIの頭文字のAをモチーフに、水と緑のカラーで未来への飛躍を表現しています。